

初乳給与の基礎知識

子牛は胎内で免疫をもらえないため、生まれたての子牛は病原性微生物に対する抵抗力はほとんどありません。良い初乳を飲ませることが、疾病を予防する第一歩です。

良い初乳とは？

“免疫グロブリン＝抗体“が多く含まれている初乳

↳ バイ菌と戦う武器のようなモノ

～初乳給与のポイント～

初乳の質

子牛に飲ませる量

産まれてから飲ませるまでの時間

【初乳の質を高めるために】

- ・分娩前後の飼料給与（増飼い）
子牛を育てるための体力と栄養が獲得される。
- ・母牛へのワクチン接種
下痢症予防ワクチンや呼吸器病予防ワクチン等を接種すると初乳中の抗体が増える。
- ・乳頭、乳房をきれいに拭く
子牛の口に入る乳頭の汚れを除くと病原性細菌も減る。

【子牛に飲ませる量は？】

黒毛和種では自然哺乳が多いため、泌乳量や哺乳量がわかりません。そこでまず、黒毛和種の泌乳量・哺乳量を知りましょう。

経産牛の初乳泌乳量：0.6～2.0kg（子牛が飲む前に搾った量）

自力哺乳量：体重の約10%

（生時体重 30.3 ± 3.8 kg の子牛では2.1～3.1kg飲めた）

初産～2産目までは泌乳量、抗体量ともに少量です。自然哺乳の場合、生後6時間以内に**初乳製品**や**凍結初乳**を、体重の5%を目安に1～1.5%追加給与しましょう。

【初乳を飲ませるタイミング】

従来から、“初乳は産まれたらできるだけ早く”と言われてきました。しかし、早さを優先して強制的に飲ませるより、子牛が自力で立ち上がった頃に初乳を飲ませるほうが、抗体を吸収する能力が高まります。

なぜ？

- ・ 母牛が子牛を舐めると 呼吸や血液循環などの生理機能が活動を始める
- ・ 子牛の胃内に羊水があると 抗体の吸収率が低下する
胃内に羊水があると初乳がうまく胃内で固まらず、液体のまま腸に移動してしまいます。

初乳給与の注意点

生後早く（子牛が立ち上がった頃が適期）

遅くても生後6時間以内に飲ませる

初産または乳量が少ない母牛では、初乳製剤や凍結初乳を補助的に給与する

黒毛和種では経産牛でも初乳泌乳量が少ないため初乳製剤や凍結初乳給与を検討する

乳頭を拭き、搾ってみてブツや異常な臭いがしたら飲ませない

